

図書関係事業概要

昭和三十一年における主な事業は、次の通りである。

一、出版

桂宮本叢書^{第七卷} 私家集七 一冊 二七〇部 (市三〇部) 養徳社

(内容) B 6 版 三六九頁 鎌倉後期の九歌人十集、即ち柳葉和歌集、中書王御詠、深心院関白集、長景集、慈道親王集、藤原長綱集、資平集、澄覚法親王集、大納言為氏卿集、惟宗光吉集を収める。

桂宮本叢書^{第十四卷} 合 一冊 二七〇部 (市三〇部) 養徳社

(内容) B 6 版 三四七頁 平安鎌倉期の未刊歌合二十篇および特に参照を要する流布三歌合、即ち承保二年九月殿上歌合、国信卿家歌合、散位源広綱朝臣歌合(二ヶ度)、無名歌合、内大臣家歌合、内蔵頭長実家歌合、摂政左大臣家歌合、奈良花林院歌合、永縁奈良房歌合、殿上藏人歌合、山家歌合、歌合^{文治二年}、歌合^{十月廿二日}、歌合^{廿四}、若宮撰十五番勅判御歌合、桜宮歌合、春日社歌合、内裏歌合、日吉歌合^{大宮、日吉社撰歌合、春日若宮社歌合、歌合^{文永二年}七月廿四日}を収める。

桂宮本叢書^{第十五卷} 増訂 物語一 再版 一冊 一三〇部 (市一七〇部) 養徳社
(内容) B 6 版 二六一頁「とはすかたり」五冊に、新らしく「む

くら三」一冊を加えて再版した。(以上三月刊)

むくら三 影印 一冊 解説一冊 一五〇部 便利堂

鎌倉期に著わされたと思われる作者不明の物語および源氏物語歌の抜書とからなる孤本で、書写年次は鎌倉期を下らない。(三月刊)

いはてしのふ 影印 一冊 解説一冊 一五〇部 便利堂

前書と同じく鎌倉期の成立と考えられる作者不明の物語の巻二の部分、書写年次は南北朝期(伝光厳院宸筆)。(三月刊)

土右記^{延年} 影印 一軸 解説一冊 一五〇部 便利堂

九条家旧蔵本のうちより発見された新史料で土御門右大臣源師房の日記、鎌倉初期の写。(十二月刊)

二、マイクロ撮影(書日)

書陵部本

枕草子^{三卷本} 江戸写 三冊 二六八コマ

とはすかたり 江戸写 五冊 二二七コマ

新古今和歌集^{卷一—一五} 江戸写 三冊 二八六コマ

下学集 室町写 一冊 一九四コマ

節用集^{堯空本} 室町写 一冊 一三六コマ

節用集^{印度本} 江戸写 一冊 六一コマ

水左記承暦四年	自筆	二軸	一八二コマ
春記長暦二、四年	平安写	八軸	五七五コマ
世説新語三卷	宋版	三冊	三〇二コマ
海人のかる藻	江戸写	四冊	一一四コマ
我身にたどる姫君	江戸写	八冊	二三七コマ
東山御文庫本			
小右記天元五、万寿四 賀茂祭部類記	一冊	三八コマ	
御入記目錄	一綴	六コマ	
中右記寛治元、 永治元年	七四冊之 内六八冊	三、三一九コマ	
中右記賀茂祭部類	一冊	八一コマ	
中右記立后部類記	一冊	四三コマ	
師実公記寛治二年 三、十二月	一冊	四〇コマ	
玉英延元三年 七月	一冊	一一コマ	

通冬卿記目錄延元三、 正平三年	一冊	三二二コマ
春記天喜一、治安元、二年 附不知記永万二年	一冊	二七コマ
源基綱朝臣記康和元 年夏	一冊	一六コマ
台記保延五年二月 列見	一冊	二八コマ
玉葉建久元年 四季	一冊	一三六コマ
為氏卿記文永七年 十月	一冊	三一コマ
公衡公記永仁六年 十一月	一冊	四五コマ
頼藤卿記正安元年 正月	一冊	七コマ

三、展示会

恒例の展示会として、十月末、十一月初に伏見宮および九条家旧蔵記録展を開催した。その他、学会、研究団体等の要望に応じ、適宜所望主題により小展示会を開いた。